

### 都市型食り施設が竣工

#### 羽村バイオガス発電所

#### 東京で80t/日の受皿に



植田 徹也 社長

東京都羽村市で、ア  
ーキアエナジー(東京  
・港、植田徹也社長)  
がプロジェクトを企画  
・運営し、建設を進め  
てきた羽村バイオガス  
発電所が、このほど竣  
工した。食品廃棄物な

ど1日当たり約80t処  
理、年間約770万t  
の時の発電能力を持つ  
施設で、産廃処分業の  
許可取得を待って、8  
月にも営業運転を開始  
する。7月9日には、  
竣工式が行われ、羽村  
市長をはじめ関係者が  
出席した。

理棟、発酵槽、排水処  
理設備、発電設備で構  
成される。近隣と都内  
から受け入れた食品残  
さなどからバイオガス  
を発生させ、1100  
kWの発電機を24時間  
稼働させてつくった電  
力を、東京電力エナジ  
ーパートナーに売電す  
る。

運営主体に、西東京リ  
サイクルセンター(植  
田徹也社長)がオペレ  
ーションとプロジェクト・  
ファイナンス型のリー  
ス契約を締結してお



都内で食りの貴重な受け皿として  
竣工した羽村バイオガス発電所

ーションを  
行う。原料  
の受け入れ  
を開始後、  
順調に行け  
ば、10~11  
月には発電  
を開始でき  
る見込み  
だ。  
総事業費  
は35億円。  
このうち、  
22億円分相  
当の設備に  
ついて、三  
井住友&リ  
サイクルセン  
ター(植田  
徹也社長)が  
オペレーシ  
ョンとプロ  
ジェクト・  
ファイナ  
ンス型の  
リース契  
約を締結  
してお

り、事業化計画の当初  
に掲げた「補助金等を  
使わず、全額民間資金  
によるプロジェクト・  
ファイナンス方式で資  
金調達する」の方針に  
沿った形となった。  
植田社長は、竣工式  
のあいさつで、用地取  
得から4年の歳月を経  
て竣工に至った経緯に  
触れ、「ようやくスタ  
ートラインに立つこと  
ができた。地元へ貢献  
し、雇用創出と安心・  
安全を提供しながら操  
業していきたい」と意  
気込みを語った。(4  
面につづく)

食品系・バイオマス

羽村バイオガス発電所

(1面からつづく)

東京都羽村市で竣工したプロジェクトとしては、2017年に竣工した牧之原バイオガス発電所(静岡県牧之原市)に続く第2のプロジェクトとなる。「地産地消」を掲げ、さら

営したプロジェクトと

「消」や「地元貢献」にこだわった事業方針も、牧之原のプロジェクトから一貫して引き継いだ格好だ。

またトラブルにも見舞われたが、一つ一つ腰を据えて解決し、今回導入したプラントの選定も、牧之原の経験のたまに成り立った工場」

将来的には、発酵後に残る消化液を農地還元することも視野に入れる。



神事のあと並木・羽村市長があいさつ

食り発電で地元貢献へ

牧之原工場の経験生かす

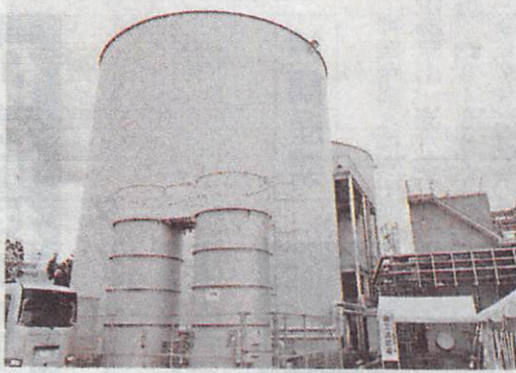
と述べた。

羽村での事業計画にあたって、同社では当初から▽原料の収集、設備の運営、発生した電気やその他生産物の消費までを完全に「地産地消」で行う▽補助金等を使わず、全額民間資金によるプロジェクト

具体的には、地産地消の部分では、近隣または都内の事業所から1日当たり約80トンの食品残さを受け入れてメタン発酵・ガス化し、100キロワットの発電機

立つた事業は、市の今後の発展にも大変重要であり、歓迎している。地域住民の安全・安心に細心の注意を払い、周辺環境の保全にも十分配慮いただきながら、事業を推進したい」とあいさつした。

また、23年稼働に向けて首都圏で計画している第5プラントについてもプロジェクト・ファイナンス方式での資金調達を開始する他、北関東地区でも2件のプロジェクトについて組成中という。



工業専用地域の約1000坪の敷地に前処理棟、発酵槽(写真)、排水処理設備、発電設備が配置された



起動式では、包装されたデコレート菓子の廃棄物をホッパーに投入。スクリーンコンベアで破砕分離工程へ